学校番号	1006

令和２年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「高校美術Ⅰ」　（文教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学校美術の学習で養われた表現力・鑑賞力を伸ばし、美術の幅広い創造活動をとおして、美的な力を豊かにし、感性を高め育てます。
制作と鑑賞を通し学習していき、美術表現の基礎的な技術を身につける授業です。

２　学習の到達目標

デザイン、絵画、立体作品の創作活動をとおし、自分で考え、表現する難しさと、作品が完成したときの楽しみに気づき、芸術作品を尊ぶ感性を身につける。
自分で考えたアイデアを充分に表現できる平面構成、立体表現の基礎的な知識と技術を身につけ育む。
互いの鑑賞を通して、自己表現に自信を持たせると共に、互いを認め合う心情を育てる

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	過去の美術作品を鑑賞し感じ学んだこと踏まえ、新しいアイデアや表現を自ら考え意欲的に制作に取り組めている。 説明を聞き安全意識を持ち技術を実践できている。	1 つテーマに多角的な視点で捉え考えること。 授業中に学んだ表現方法を自ら発展させ取り組めている。	基本的な道具の使い方を学び、道具、設備を大切にする。 準備と後片付けは適切にできている。	色彩の特性を理解する。 立体的に物を捕らえることができる。 他の生徒の作品を鑑賞し互いに違いを認め合える。
評価方法	作品アイデアの評価 制作態度の観察 評価シート	作品企画書の内容 制作態度の観察 評価シート	制作態度の観察 制作環境の後片付け 評価シート	合評での意見や発言 作品鑑賞 制作態度の観察 評価シート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	道具箱作り	美術Ⅰで使う必要な道具を大切に保管する道具箱を作ります。	○			○	a:適切な説明を聞く態度を持ち安全に道具を使えているか。 d:完成形の構造を理解し、制作できているか。	授業態度 評価シート
	自分の名前キャッチコピー	コピーライターの仕事にふれ自分の事を一言で理解できるキャッチコピーを考える。	○	○		○	a:身近なコピーライターの作品にを紹介し興味関心を持てているか。 b:自分をキャッチコピーで表現するための自己分析ができているか、オリジナリティがあるか。 d：コピーライターの作品を鑑賞しキャッチコピーの理解を深める。	アイデア 企画書 評価シート
	名前ロゴマークデザイン	自分のキャッチコピーをオリジナルフォントに替えてロゴデザインする。 ポスターカラーの基本的な使い方を学びロゴを着彩する。		○	○	○	b:紹介した作品を通して新たな表現方法を考えること。 オリジナリティのある作品に仕上がっているか。 c:絵の具の塗り方はむらなくはみ出さずにぬれているか。 d:色彩の特性を理解し意図した表現ができているか。	アイデア 企画書 制作態度 後片付け 評価シート
2学期	鑑賞レポート	夏に行われる高校展を鑑賞し展示作品についての鑑賞レポートを書く。				○	d:他の高校の作品制作を鑑賞し感じたこと個人の考えをかけているか。	レポートの内容と書き込み
	キャンドルカービング	文化祭の展示に向けてのキャンドルを制作する。 色彩の組み合わせをしっかり考えて、彫刻刀で立体デザインを彫る。	○	○			a:文化祭に向けてグループ展示する一員としての自覚を持ち自発的に制作に取り組めているか。 b:1学期にに学んだ色彩の基礎知識を踏まえ色の構成をし、立体的にデザインを彫ることができているか。	アイデア 企画書 制作態度 後片付け 評価シート

3学期	絵画表現	筆以外の道具を使い形のないものを抽象表現する。	○	○		○	a: 前向きに実験的なことに挑戦できているか。 b: 自分だけか感じ取っている独特な感性を表現できているか。 d:鑑賞を通し他の生徒の表現したいことを理解し美的感性を深める。	制作態度 後片付け 評価シート
	ペーパークラフト	画用紙をカッターで切り、様々な立体作品を作る。	○		○	○	a:前向きに安全面に配慮し工作ができているか。 c:カッターナイフの適切な使い方 d:面と面の構成で立体ができることへの理解。	制作態度 後片付け 評価シート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。